

進捗状況の概要【1ページ】

本学の建学理念に基づき、また、本学の特徴を活かしながら、さらなる国際化・多様化に対応すべく、4学期制の導入、先進ICTグローバルプログラムの創設、会津大学シリコンバレーオフィスの開設をはじめ、提案したプログラムを順次実施することができ、構想調書で述べた課題の解決を進めることができた。

また、次年度以降のさらなる展開に向けて、着実に準備を進めることができています。本事業の中核となる4つの基本プログラムに関しては、以下のような具体的な実績をあげることができた。

(1) 学部・大学院一貫オナーズプログラム

平成28年度から4学期制の学部への一部導入を開始し、学部専門教育と大学院教育との連続性を強化することで大学院進学を促進していくとともに、海外短期留学による単位取得を容易にした。また、平成28年度までに試行的に実施した取組を踏まえて、平成29年度からの学部・大学院一貫オナーズプログラムを進めていくため、学生のインセンティブを向上させるための様々な支援施策の実施に向けて準備を進めた。

(2) 先進ICTグローバルプログラム

平成27年度に制定した3つのグローバル入試制度を実施し、ICTグローバルプログラム全英語コースに第1期生として学部1年生4名、3年次編入生7名、合計11名の留学生在が平成28年10月に入学した。留学生の入学に合わせ、先進ICTグローバルプログラムのための英語による授業を順次開講し、新設科目（「会津の歴史と文化」、「初級日本語Ⅰ」、「初級日本語Ⅱ」他）も開講した。

また、グローバル入試制度の対象地域の拡大を図るため新たな制度を導入し、募集要項への国際基準の追加、英語資格など出願要件を見直して、平成29年度入学者選抜試験から実施することで、より多くの学生に対応できるよう入試制度の改善を図った。

さらに、受入留学生数が増加することを見越して、バディプログラム（相棒制度）を新たに創設し、留学生の支援体制を整備するとともに、学生寮を改修することで、定員を増加させた。

(3) 技術革新・創業基礎・海外研修科目群

平成28年5月にシリコンバレー（米国カリフォルニア州）に「会津大学シリコンバレーオフィス（研修拠点）」を開所した。

また、平成27年度に引き続き、平成28年8月から9月にかけて米国シリコンバレーインターンシッププログラムを実施した。9名の学生が参加し、SDカード発案者に直接話を聞いたり、スタンフォード大学Techshop（DIY工房）、SAP Palo Alto Labs、ミニメーカー展示会等、最先端の技術などを視察した。実際に開発した製品の発表などを行ってきた参加学生は、このプログラムを通じて、シリコンバレーの起業風土、先進的なICT技術、Maker Spiritなど国内では学ぶことができない様々なものに触れることができ、グローバルな体験をより深めることができた。

さらに、大学院新設科目である「ICTグローバルベンチャー工房」を開講し、シリコンバレーオフィスを活用した遠隔講義を実施し、シリコンバレーにおける斬新な技術や創業に関わるノウハウ等についての講義を行うことで、学生のグローバル化を図った。

(4) ガバナンス改善とグローバル化

部局長や教職員の意向を速やかに反映させる仕組みの構築、外国人部局長の採用、会議のペーパーレス化をさらに進めるとともに、会議の効率的開催を図るなど、迅速な意思決定を実現する工夫を行った。

また、「会津大学ダイバーシティ推進宣言」の公表、教員業績評価制度の試行実施案の作成、大学経営・財務情報に関する決算データの分析・活用策の検討などを行うとともに、法人職員に対して海外研修の機会の創出などのグローバル化を進めた。

次に、特別プログラムに関しては、修学支援室の整備拡充、語学力の向上を目指すための外国語オンラインラウンジに基づく多文化環境の整備・活用、職員向け英語クラスについても順調に進めることができた。特に平成28年度は、学部新たに留学生を迎え入れるにあたり、留学生支援窓口や留学生オリエンテーションなどの充実を図ったほか、留学生が不安なく、充実した大学生活を送れるよう、バディプログラムを新設するなど、日本人学生が国際感覚を養いながら、留学生の生活面や学習面をサポートする体制面の強化も図った。

本学独自に定めたものも含め、成果指標については、一部に遅れている項目もあるものの、多くの項目で目標値に達成することができた。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】**1 Aizu Geek Dojo（会津大学ギーク道場）の開設（基本プログラム1）**

学生の創業体験の場、PBL実践の場となり、より一層独創的なものづくりに専念できることを目的として、3Dプリンタ、レーザーカッターなどの工作機械を備えたものづくりスペース「Aizu Geek Dojo（会津大学ギーク道場）」を平成28年8月に新設した。同年10月からはこの工房の機材とソフトを活用したオナーズプログラムの講座として「ものづくり基本講座」を開講した。

この講座で学生は、考え出したアイデアをソフトウェア、電子回路、ハードウェアの組み合わせにより、短時間でプロダクトとして実現させる手法を学び体験した。学生がものづくりに専念できる環境が整い、より実践的な内容を効果的に学習することができるようになった。

2 バディプログラム（相棒制度）（基本プログラム2）

平成28年10月から学部留学生が入学することに伴い、留学生の学修支援、生活支援、日本人学生のグローバル意識の向上を目的として、相棒制度を整備した。入学前に留学生と日本人学生のマッチングを行い、バディを決定し、入学後はお互いに外国語の勉強や文化の交流などを行うことを目的とした。

プログラムは学生主体で実施されており、大学は定期的にアンケート等で状況を把握することとしているが、現在でも良好な関係が保たれている。

3 会津大学シリコンバレーオフィス（海外拠点）の設置（基本プログラム3）

平成28年5月に米国シリコンバレーにある「Hacker Dojo」というワーキングスペース内に本学の拠点を設置した。現地を訪問する学生、教職員が同じスペースで働くエンジニア達から刺激を受け、創業精神の育成や語学力、主体的学習への取組意欲の向上等に繋がることを目指すとともに、後述する米国シリコンバレーインターンシッププログラムの研修拠点としても活用することとした。また、現地スタッフを通じて、最新情報の収集、遠隔講義の実施等も行った。

4 米国シリコンバレーインターンシッププログラム（基本プログラム3）

「シリコンバレーの環境の中で実際にものづくりをする」ことを大きなテーマとし、新しい技術を多く生み出し、ビジネスにつなげているシリコンバレーを訪問し、現地の起業風土、先進的なICT技術、Maker Spiritなど、ものづくりを中心とした項目を学ぶことを目的にした研修を平成28年度より開始した。1週間の国内研修では、会津大学発ベンチャー企業と連携し、会津大学内ものづくりスペース「Aizu Geek Dojo（会津大学ギーク道場）」において、ものづくりに使用する機材の使い方を修得した。2週間の海外研修ではHacker Dojoを拠点とし、SVの企業や大学等を訪問し、日本人起業家から起業の道りを聞いたり、スタンフォード大学のd.schoolにおいてデザイン思考の講義を受けた。参加学生は、実際にシリコンバレーで働いている人たちの中でのものづくりを行い、その環境に身を置き、周囲のエンジニア達からの影響を受けることで、やる気と「きっとできる」という自己効力感を高めることができた。

また、英語で現地のエンジニアたちとコミュニケーションを取ったり、帰国後も含め、プレゼンテーションをしたりすることにより、語学力、発表力に自信を持つことにもつながり、大学の講義や演習を受けるだけでは得られない、ものづくりに対する強い精神力を得ることができた。

5 大学院創業系科目の設置（基本プログラム3）

会津若松にいながらICT先進地であるシリコンバレーの動向を知り、グローバルICTビジネスに必要な知識を身につけることを目的としたICTグローバルベンチャー工房を平成28年度より大学院のセミナー科目として開講し、シリコンバレーの本学の拠点から技術者、経営者、起業家等を講師として遠隔授業を実施した。前半は、技術開発を重点に置いた講義、後半ではビジネスの展開の仕方、収益モデル、マーケティング等に重点を置き、シリコンバレーを始めとする世界の動向やグローバルビジネスに必要な知識の修得を目指した。

6 THE世界大学ランキング日本版で総合23位

平成29年3月に発表された世界大学ランキングにおいて、本学が総合で23位、国際性で12位にランクインした。これまで本事業を中心として行ってきた人材育成や国際化への取組みが対外的に高く評価されたものであり、引き続きランキングの維持、向上に向けた取組みを行っていく。